

「令和3年度 府民講座」 発達障害の理解と支援 ～特別支援教育のいまとこれから～ 報告



講演講師：竹田 契一 氏



オンラインライブ配信の様子

講演 竹田 契一 氏

大阪教育大学名誉教授
大阪医科薬科大学 LD センター顧問
府専門家チーム委員

実施日：令和4年1月22日(土)
参加(視聴)総数：480名
*参加者の内訳は下記(図1)を御参照ください。
アンケート回答数：232件(2月8日時点)

一昨年より、京都府スーパーサポートセンター開設10周年を記念し、竹田 契一 先生を講師にお招きして準備を進めてきました「府民講座」を、この度、ようやく開催することができました。

新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、やむなく京都市呉竹文化センター会場での実施を中止し、すべてオンラインライブ配信に変更し開催することになりましたが、教育・福祉・保健・医療関係、そして保護者といった様々なお立場の、総計480名もの府民の皆様にご視聴いただき、大変充実した研修講座となりました。

竹田 契一 先生からも、「京都の皆さんに直接会ってお話できなかったのは残念ですが、このコロナ禍の中、府民講座を開催されたことは、大変貴重なことです。ぜひ次の機会も期待します。」とのお言葉をいただきました。

講演では、長年に渡りわが国の特別支援教育を牽引されておられる竹田 契一 先生に、発達障害のある子ども達の思いや生きにくさについて、さらに、それぞれの特性や課題への気づきにおける視点と、必要な支援や対応などについて、具体的な事例を交えながらお話しいただきました。また、コロナ禍での課題の一つとして浮き彫りとなった「ゲーム依存」についての理解と対応など、これからの特別支援教育のあり方についても御講演いただきました。

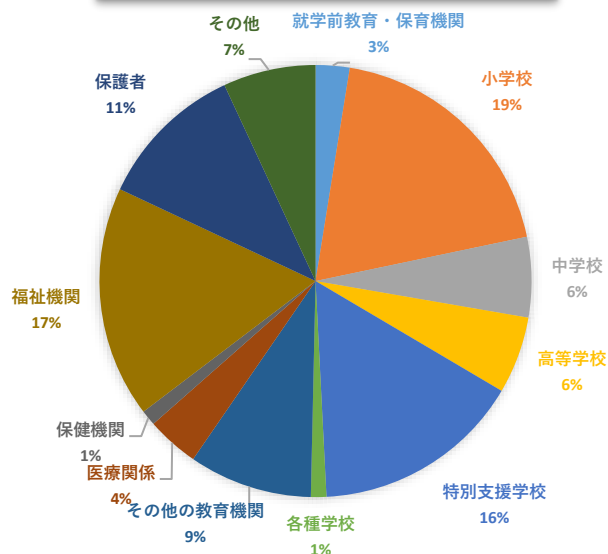
開催直後から、参加者の皆様より「竹田先生の御講演から、多くの気づきや学びがあったこと」など、多くの御感想を視聴アンケートにてお寄せいただき、発達障害のある子ども達の思いや生きにくさをとらえ直し、その対応や支援について改めて考える機会となるなど、大変好評をいただいております。

SSC といたしましても、関係者の方々、保護者の方々、そして府民の方々が、発達障害等のある子ども一人一人への理解と支援のあり方や、特別支援教育の必要性を共に考えていく機会としての「府民講座」の役割を再確認することができました。

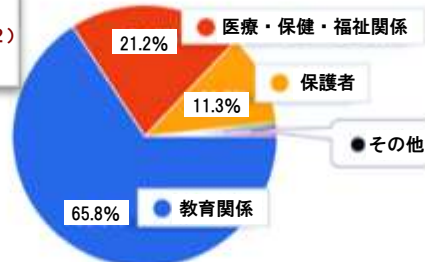
なお、参加者の皆様の所属先集約や御感想の一部抜粋などを、下記にて御紹介いたします。ぜひ御参照ください。

参加者の皆様には、開催形態の変更に御理解いただきましたことにお礼申し上げますと共に、オンライン配信上、音声や映像に一部不鮮明な部分がありましたこととお詫び申し上げます。御視聴いただいた皆様からの御意見等は、今後の研修会企画等の SSC の取組に活かして参りますので、これからも御支援のほどよろしくお願い申し上げます。

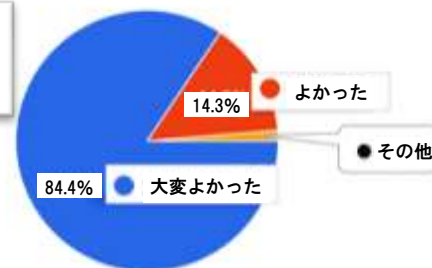
全ての申込みいただいた方の御所属 (図1)



アンケートに御回答いただいた方の御所属 (図2)
232 件の解答



講演についての感想 (図3)
232 件の解答



【参加者の方々の御感想から】

- 子どもを中心に据えて、誰にでも理解ができるよう丁寧にお話しいただき、子どもの目線に立つことの重要性を改めて感じた。自分の実践を振り返ることができ、理解が深まった。
- 現時点での最新の研究や今後の見通し等も聞くことができる貴重な機会となった。今回いろいろな立場の方が講演を聞かれていたと思うので、発達障害に対する理解が進み、特性のある子ども達が、理解者が増える中で自分の望む未来を自由に選べるようになるだろうと思う。

- 子どもに当てはまる特性と当てはまらない特性とがあり、親が手助けをする範囲に悩むことがあったのだが、周りの大人が気づいてやらなければならない、ということをおっしゃっていただき、関わりについて少し安心を得られた。誰もグレーな部分は持ち合わせていると思うので、そのことを忘れず接していこうと思う。
- ゲーム依存の問題は、勤務校の児童にも増えているように感じており、発達障害の子ども達が抜け出しにくく、家庭でもお困りのことでもあるため、これからさらに大きくなるように感じる。子ども達が生き生きとした生活が送れるように、ゲームをコントロールできる力を育てていきたい。
- コロナ禍にあっても、オンラインライブ配信により、安心して受講できた。竹田先生のお話を直接聞けず残念ではあったが、開催方法の一つとしては良かったと思う。